

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編



スポーツ施設

7 スポーツ施設

その1 施設の概要

与謝野町にあるスポーツ施設は、体育館、グラウンド、テニスコートが主で、旧町に一つずつ整備されていたものをそのまま新町に引き継いで運営しています。施設種類ごとに分けて紹介します。

カテゴリー1 体育館

体育館は、旧町時代の町民体育館をそのまま引き継いでいます。建築年はそれぞれ昭和 60 年頃となっていますが、岩滝小体育館は平成 17 年度に建築されています。岩滝体育館は昭和 63 年の京都国体においてウェイトリフティング競技の会場にもなっており、規模においては町内最大です。その他、石田地区に農林事業で整備された農業者健康管理施設があります。

【体育館施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
大江山体育館	滝881番地 1	5,298.0㎡	1,495.2㎡	S61	直営
岩滝体育館	岩滝875番地、861番地2、850番地	7,507.7㎡	2,281.3㎡	S56	直営
岩滝小体育館			531.2㎡	H17	直営
野田川体育館	四辻145番地	2,672.04㎡	1,100.1㎡	S57	直営
農業者健康管理施設	弓木245番地	10,672.0㎡	509.6㎡	S57	地元委託

合計 26,149.7㎡ 5,917.4㎡

※農業者健康管理施設は、農林事業により整備された健康増進施設で、現在は地元の石田区に管理委託しています。近くにグラウンドもあり、敷地面積はそれも合わせた面積です。白書では体育館部分のみを取り上げます。



カテゴリ2 グラウンド

グラウンドは、旧町時代の町民グラウンドをそのまま引き継いでいます。大江山運動公園グラウンドと野田川グラウンドは昭和63年の京都国体において軟式野球競技の会場にもなっていました。その他、算所地区に算所社会体育グラウンドが設置されています。

【グラウンド施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設年	運営形態
		敷地	延床		
大江山運動公園グラウンド	滝881番地1	16,915.0㎡	-	S58	直営
岩滝グラウンド	岩滝875番地1	11,452.6㎡	-	S55	直営
野田川グラウンド	幾地450番地	15,956.0㎡	-	S57	直営
算所社会体育グラウンド	算所576番地	3,446.8㎡	-	S62	直営

合計 47,770.4㎡

※敷地面積のみを記載しています。ダックアウトやトイレ、倉庫などの建築部分の延床面積は表示しません。
 ※男山八幡公園は野球のできるグラウンドが整備されていますが、条例上は都市公園となっており、都市公園のカテゴリに入れていません。

【施設位置図】



カテゴリ-3 テニスコート

テニスコートも旧町で1つずつ整備されていたコートをそのまま引き継いでいます。後述しますが、大江山運動公園テニスコートと城山公園テニスコートは砂入人工芝で、野田川テニスコートは土のコートです。

【テニスコート施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建設	運営形態
		敷地	延床		
大江山運動公園テニスコート	滝881番地1	2,316.0㎡	-	S61	直営
城山公園テニスコート	岩滝477番地1	3,200.0㎡	-	S59	直営
野田川テニスコート	幾地450番地	2,890.0㎡	-	S57	直営

合計 8,406.0㎡

【施設位置図】



カテゴリ-4 その他スポーツ施設

その他スポーツ施設は城山公園弓道場です。
場所は城山公園敷地内です（城山公園テニスコートと同じ）。



【その他スポーツ施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
城山公園弓道場	岩滝1656番地15	710.5㎡	94.8㎡	S61	弓道協会管理

その2 施設の物理的状況

スポーツ施設の建築物は体育館と、城山公園の弓道場の屋内体育施設になります。これらは昭和 56 年～昭和 61 年の 5 年間に建設されており、概ね築 30 年を経過する建物ばかりです。

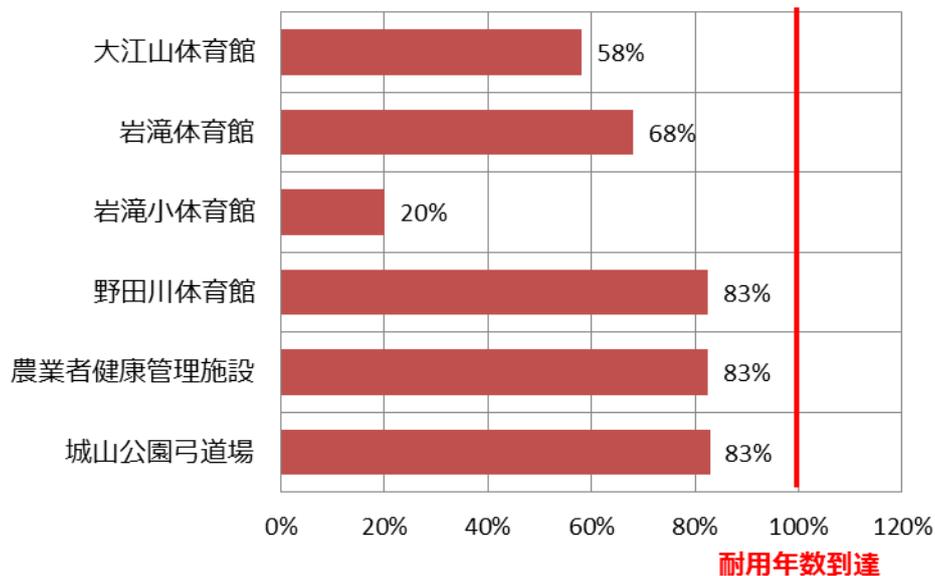
① 老朽化の状況

【屋内体育施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
大江山体育館	鉄筋コンクリート造Ⅱ階建	S61	H48	58%	有
岩滝体育館	鉄筋コンクリート造 1階建一部2階建	S56	H43	68%	無
岩滝小体育館	鉄骨鉄筋コンクリート造一 部鉄骨造2階建	H17	H67	20%	有
野田川体育館	鉄骨造1階建	S57	H34	83%	有
農業者健康管理施設	鉄骨造1階建階建	S57	H34	83%	不明
城山公園弓道場	木造1階建	S61	H33	83%	不明

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過となります。

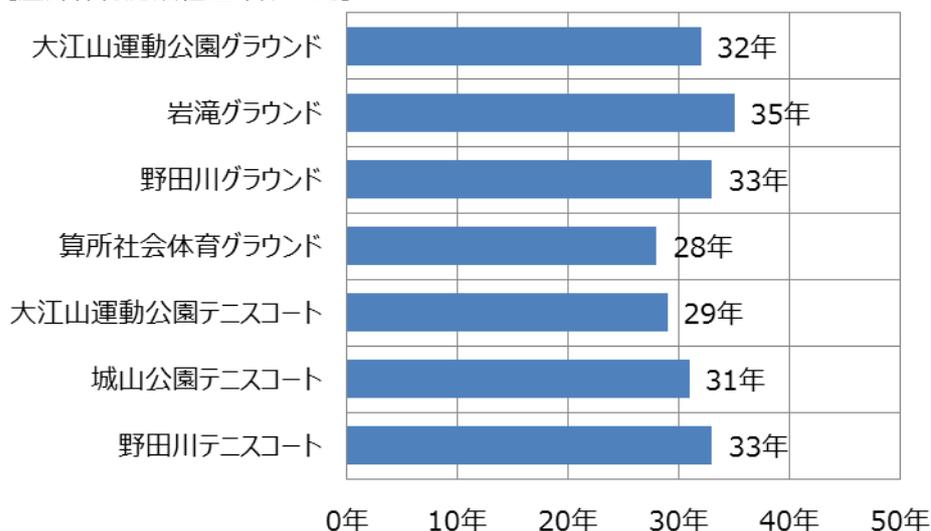
※耐用年数は鉄筋コンクリート造50年、鉄骨造40年、木造35年を想定しています。



野田川体育館、農業者健康管理施設、城山公園弓道場については、老朽化率が80%を超えています。岩滝体育館は雪の加重を加味した場合、耐震基準を満たさないという診断結果であり、耐震性無となっています。大江山体育館は老朽化が激しく平成25年度に大規模改修を行っています（耐用年数には考慮していません）。

グラウンドとテニスコートの屋外体育施設ですが、それらには明確な耐用年数がありませんので、参考に経過年数を示します。どの施設も概ね30年を経過しており、老朽化が目立っています。特にテニスコートについては大江山運動公園テニスコートと城山公園テニスコートは人工芝の張替を近年実施しています。

【屋外体育施設経過年数一覧】



② 施設の規模

それぞれの施設の面積と、実際に競技を行う上でどれくらいの規模なのかを比較しています。

■ 体育館

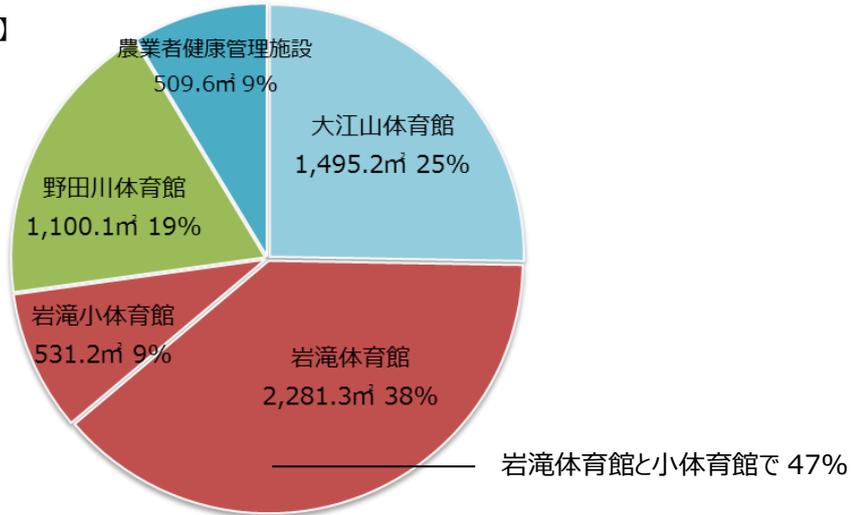
体育館の規模はバスケットボールやバレーボールのコート数と武道場の大きさを比較しています。

【体育館規模一覧】

施設名	延床面積	規模	
		体育館	武道場
大江山体育館	1,495.2㎡	バスケットボール1面 (ジュニアコート2面) バレーボール2面	50畳
岩滝体育館	2,281.3㎡	バスケットボール2面 バレーボール2面	剣道180㎡ 柔道126畳
岩滝小体育館	531.2㎡	19メートル×24メートル (バドミントンコート3面 分)	-
野田川体育館	1,100.1㎡	バスケットボール1面 バレーボール2面	42畳
農業者健康管理施設	509.6㎡	バレーボール1面 (バスケットボールはゴールが1カ所)	-

※その他に、岩滝小体育館は1階部分が外部空間になっている、いわゆるピロティ構造になっていて、ゲートボール場が2面あります。

【体育館施設面積比較】



体育館の規模を比較しますと、岩滝体育館が大きいことが分かります。隣接する岩滝小体育館と合わせると、全体体育館施設の約 50%の面積になります。競技を行う上での規模も岩滝体育館が大きく、武道場で比較しても一番大きい施設と言えます。

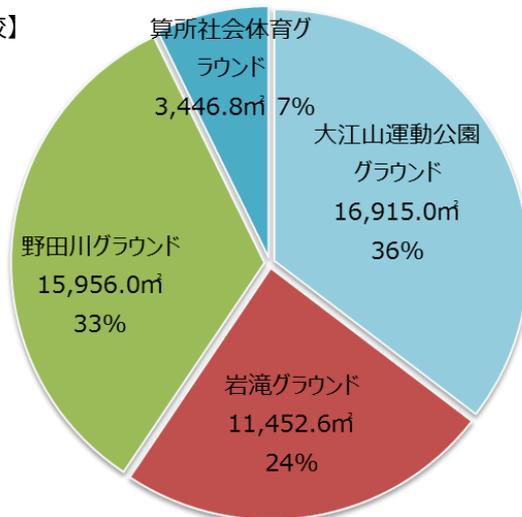
■グラウンド

グラウンドは野球・ソフトボールのコート数で比較しています。また夜間のナイター照明の下で可能なコート数も示しています。

【グラウンド規模一覧】

施設名	敷地面積	規模	
		昼間	夜間（ナイター使用）
大江山運動公園グラウンド	16,915.0㎡	野球2面、ソフトボール4面	野球1面、ソフトボール1面
岩滝グラウンド	11,452.6㎡	野球1面、ソフトボール2面	野球1面、ソフトボール2面
野田川グラウンド	15,956.0㎡	野球1面、ソフトボール2面	野球1面、ソフトボール2面
算所社会体育グラウンド	3,446.8㎡	野球、ソフトボールの試合ができる規模でない	

【グラウンド面積比較】



算所社会体育グラウンドを除くグラウンドは、概ね同等規模のであると言えます。大江山グラウンドが他よりもやや規模が大きくなっています。

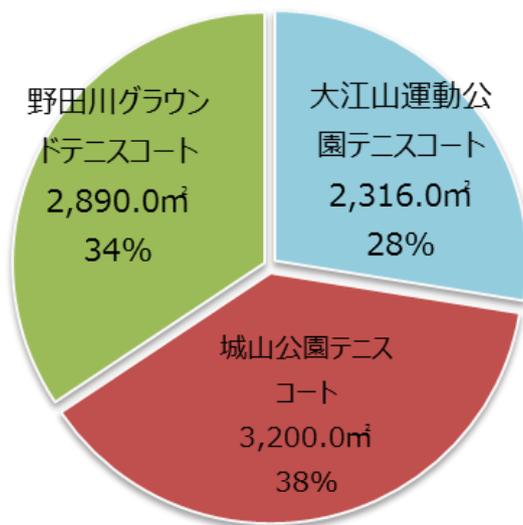
■テニスコート

テニスコートはコート数での比較です。

【テニスコート規模一覧】

施設名	敷地面積	規模
大江山運動公園テニスコート	2,316.0㎡	3面（砂入人工芝）
城山公園テニスコート	3,200.0㎡	4面（砂入人工芝）
野田川テニスコート	2,890.0㎡	4面（土）

【テニスコート面積比較】



テニスコートは規模的には大差はありません。野田川テニスコートは江陽中学校がクラブ活動で使用しています。どのコートもナイター設備がありますが、野田川テニスコートはナイター設備の不備があり、夜間の使用が2面に限られている状況です。

③ バリアフリー化状況

スポーツ施設のバリアフリー化の状況としては、建築物である体育館分を示します。以下のとおり、入口やトイレなどはバリアフリーに対応した整備が施されています。

【スポーツ施設バリアフリー化状況】

施設名	バリアフリー化						
	多目的 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	車いす用	
						エレベーター	階段昇降機
大江山体育館	○	○	-	-	-	-	-
岩滝体育館	○	○	-	-	-	-	-
岩滝小体育館	○	-	-	-	-	-	○
野田川体育館	○	○	-	-	-	-	-

④ 防災状況

スポーツ施設の防災状況は以下のとおりです。スポーツ施設は、収容できる人数が多いことから避難所などにも活用されています。

【スポーツ施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
大江山運動公園体育館	-	○	-	○	-
野田川体育館	○	○	-	-	-
岩滝体育館 (岩滝柔道場、岩滝剣道場)	○	-	-	-	-
岩滝小体育館	○	○	-	-	-
農業者健康管理施設	-	○	-	○	-
大江山運動公園グラウンド	○	○	-	-	-
野田川グラウンド	○	○	-	-	-
岩滝グラウンド	○	-	-	-	○
算所社会体育グラウンド	-	-	-	-	○

※大江山運動公園体育館、農業者健康管理施設は、付近の斜面が水害時の危険地域に指定されているため避難所指定されていません。

※岩滝体育館は、耐震構造基準を満たしていないために地震時の避難所指定されていません。

※算所社会体育グラウンドについては、近隣の加悦小学校・中学校等に避難所指定があるため避難所指定されていません。

その3 施設の利用状況

スポーツ施設の利用状況を施設の種類ごとに比較しながら見ていきます。

■ 体育館

旧町ごとに設置された体育館は、バスケットボールやバレーボールなど主に社会人の利用が多くなっています。野田川体育館は野田川スポーツクラブの活動が盛んで、様々な競技に活用されています。大江山体育館は平成25年度に大規模改修を行い、運営日数が少なくなっています。

【体育館施設利用状況推移表】

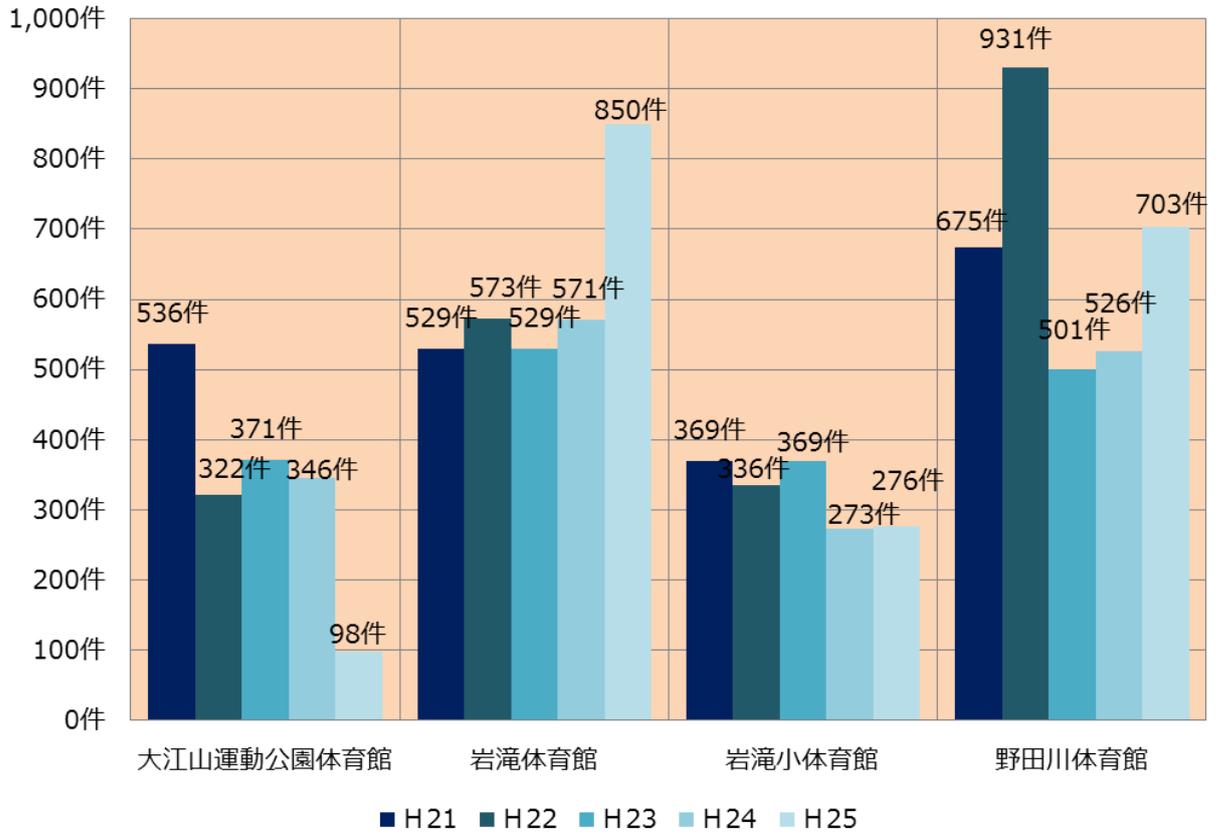
施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25
大江山運動公園体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	536件	322件	371件	346件	98件
	年間利用者数	2,302人	6,357人	10,525人	8,329人	1,895人
	1日当たりの利用件数	1.5件	0.9件	1.0件	1.0件	0.3件
	1日当たりの利用者数	6.4人	17.7人	29.2人	23.2人	5.3人
岩滝体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	529件	573件	529件	571件	850件
	年間利用者数	18,276人	16,388人	13,179人	16,090人	15,511人
	1日当たりの利用件数	1.5件	1.6件	1.5件	1.6件	2.4件
	1日当たりの利用者数	50.9人	45.6人	36.6人	44.8人	43.2人
岩滝小体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	369件	336件	369件	273件	276件
	年間利用者数	1,994人	3,398人	3,202人	2,706人	2,959人
	1日当たりの利用件数	1.0件	0.9件	1.0件	0.8件	0.8件
	1日当たりの利用者数	5.6人	9.5人	8.9人	7.5人	8.2人
野田川体育館	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	675件	931件	501件	526件	703件
	年間利用者数	11,444人	15,085人	9,274人	9,791人	11,914人
	1日当たりの利用件数	1.9件	2.6件	1.4件	1.5件	2.0件
	1日当たりの利用者数	31.9人	42.0人	25.8人	27.3人	33.2人

※各施設は、年末年始に6日間それぞれ休館するため運営日数は、359日（360日）となります。

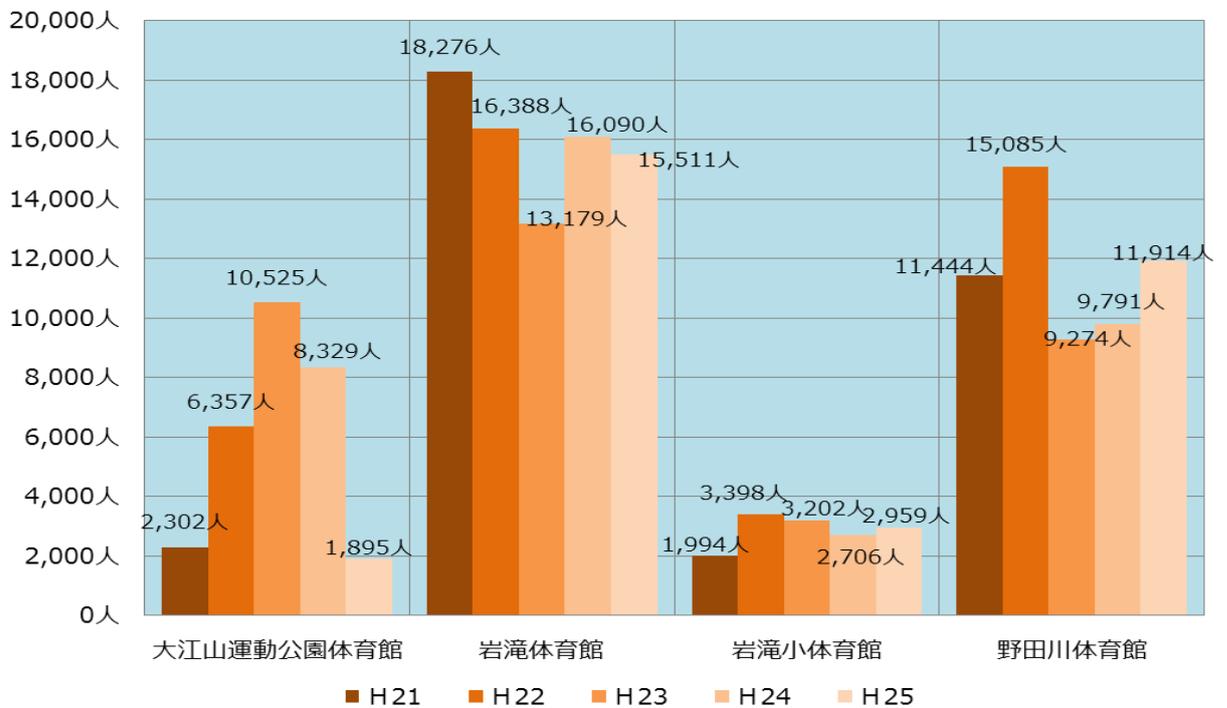
ただし、平成25年度は大江山体育館の大規模改修工事がありましたので閉館期間があります。

※農業者健康管理施設は、石田区が管理運営を行っており利用人数の把握ができていません。

【体育館施設利用件数推移グラフ】

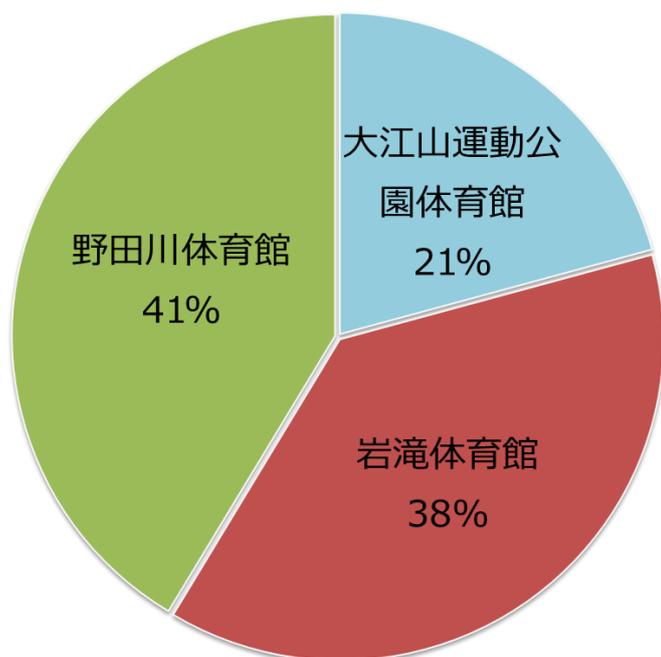


【体育館施設利用人数推移グラフ】



利用件数、利用人数ともに岩滝体育館と野田川体育館が多い印象です。大江山運動公園体育館は平成 25 年度に改修による休止期間があったものの、やや他と比べやや利用が少なくなっています。

【体育館施設利用件数比較グラフ】



大江山運動公園体育館、岩滝体育館、野田川体育館の3体育館の過去5年間の利用件数合計を比較すると、岩滝体育館、野田川体育館の割合は同じくらいで、大江山運動公園体育館がやや少ない印象です。

【参考：平成25年度利用者の町内外割合（体育館）】

町内・町外の別	大江山運動公園体育館	岩滝体育館	岩滝小体育館	野田川体育館
町内利用者	80.0%	80.2%	74.4%	87.3%
町外利用者	20.0%	19.8%	25.6%	12.7%

概ね町内の方の利用が8割、町外の方の利用が2割です。

■グラウンド

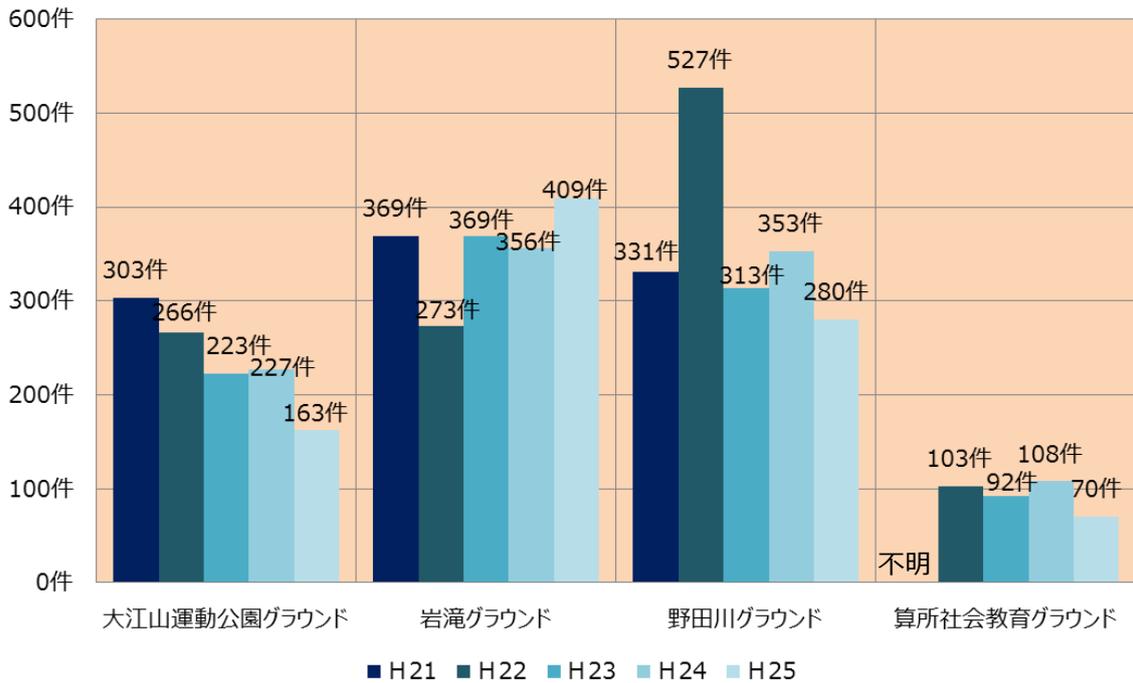
旧町地域にそれぞれ設置されたグラウンドは、ソフトボールのナイターリーグやグラウンドゴルフなどの利用が日常的であり、学童野球の大会なども行われています。冬季はナイターの利用を休止するため昼間しか利用できず、降雪などもあり利用は少なくなります。

【グラウンド利用状況推移表】

施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25
大江山運動公園グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	303件	266件	223件	227件	163件
	年間利用者数	13,622人	11,280人	11,143人	10,093人	6,936人
	1日当たりの利用件数	0.8件	0.7件	0.6件	0.6件	0.5件
	1日当たりの利用者数	37.9人	31.4人	31.0人	28.1人	19.3人
岩滝グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	369件	273件	369件	356件	409件
	年間利用者数	5,084人	9,854人	8,120人	9,267人	7,705人
	1日当たりの利用件数	1.0件	0.8件	1.0件	1.0件	1.1件
	1日当たりの利用者数	14.2人	27.4人	22.6人	25.8人	21.5人
野田川グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	331件	527件	313件	353件	280件
	年間利用者数	10,508人	12,020人	9,554人	9,519人	7,840人
	1日当たりの利用件数	0.9件	1.5件	0.9件	1.0件	0.8件
	1日当たりの利用者数	29.3人	33.5人	26.5人	26.5人	21.8人
算所社会教育グラウンド	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	不明	103件	92件	108件	70件
	年間利用者数	不明	4,045人	2,690人	2,311人	1,206人
	1日当たりの利用件数	0.0件	0.3件	0.3件	0.3件	0.2件
	1日当たりの利用者数	0.0人	11.3人	7.5人	6.4人	3.4人

※各施設は、年末年始に6日間それぞれ休館するため運営日数は、359日（360日）となります。

【グラウンド施設利用件数推移グラフ】

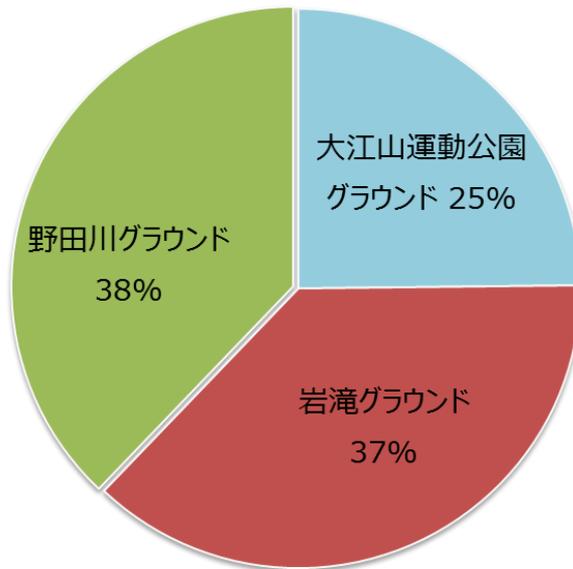


【グラウンド施設利用人数推移グラフ】



利用件数では岩滝グラウンド、野田川グラウンドが多くなっています。一方で利用人数では大江山運動公園グラウンドが多くなっており、1件あたりの人数規模が大きくなっています。

【グラウンド施設利用件数比較グラフ】



大江山運動公園グラウンド、岩滝グラウンド、野田川グラウンドの3グラウンドの過去5年間の利用件数合計を比較すると、岩滝グラウンド、野田川グラウンドの割合は同じくらいで、大江山運動公園グラウンドがやや少ない印象です。ただし、大江山運動公園グラウンドは大江山登山マラソンや消防団の大会などの規模の大きなイベントで利用されるケースが多いです。

【平成25年度利用者の町内外割合（グラウンド）】

町内・町外の別	大江山運動公園グラウンド	岩滝グラウンド	野田川グラウンド	算所社会体育グラウンド
町内利用者	90.6%	88.8%	87.9%	100.0%
町外利用者	9.4%	11.2%	12.1%	0.0%

概ね町内の方の利用が9割、町外の方の利用が1割です。

■テニスコート

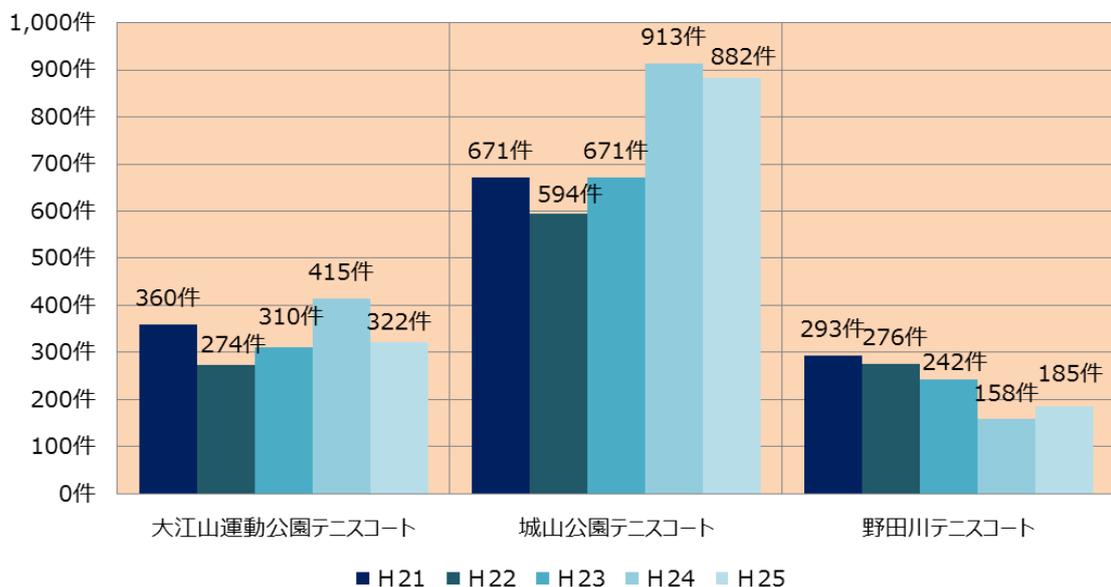
与謝野町にはテニス愛好家が多く、特に夜間や休日はほとんど利用されている状況です。こちらも屋外施設ですので、冬季の利用は制限される面がありますが、多くご利用いただいています。

【テニスコート利用状況推移表】

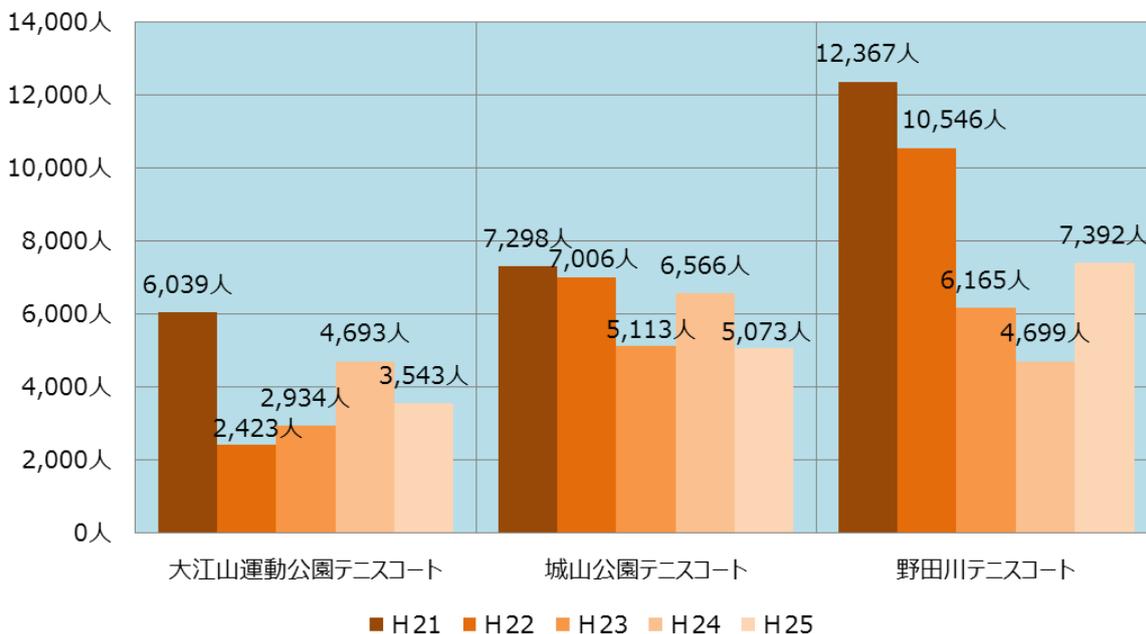
施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25
大江山運動公園テニスコート	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	360件	274件	310件	415件	322件
	年間利用者数	6,039人	2,423人	2,934人	4,693人	3,543人
	1日当たりの利用件数	1.0件	0.8件	0.9件	1.2件	0.9件
	1日当たりの利用者数	16.8人	6.7人	8.2人	13.1人	9.9人
城山公園テニスコート	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	671件	594件	671件	913件	882件
	年間利用者数	7,298人	7,006人	5,113人	6,566人	5,073人
	1日当たりの利用件数	1.9件	1.7件	1.9件	2.5件	2.5件
	1日当たりの利用者数	20.3人	19.5人	14.2人	18.3人	14.1人
野田川テニスコート	年間運営日数	359日	359日	360日	359日	359日
	年間利用件数	293件	276件	242件	158件	185件
	年間利用者数	12,367人	10,546人	6,165人	4,699人	7,392人
	1日当たりの利用件数	0.8件	0.8件	0.7件	0.4件	0.5件
	1日当たりの利用者数	34.4人	29.4人	17.1人	13.1人	20.6人

※各施設は、年末年始に6日間それぞれ休館するため運営日数は、359日（360日）となります。

【テニスコート施設利用件数推移グラフ】

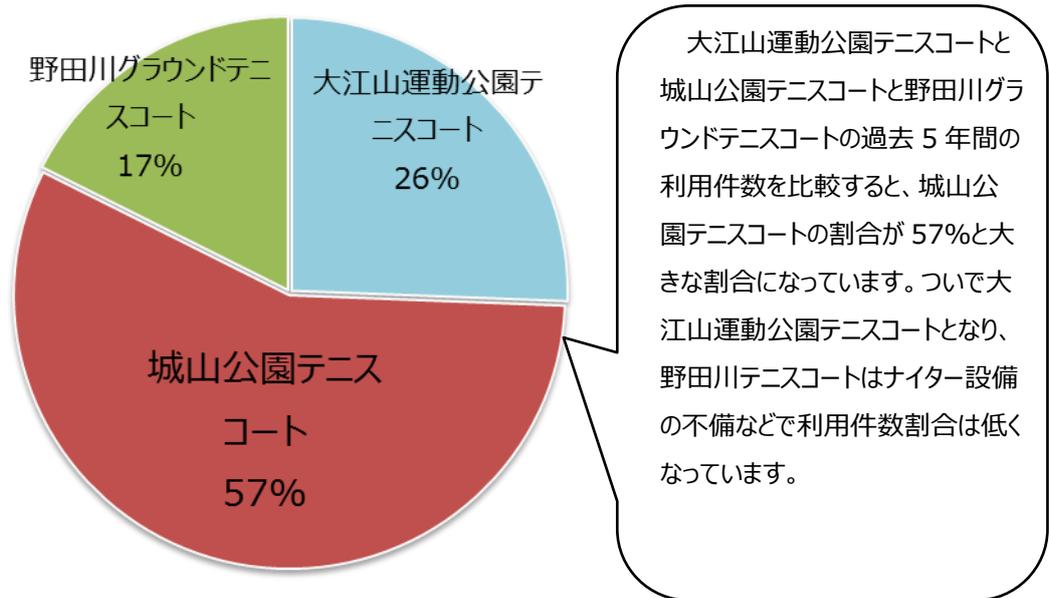


【テニスコート施設利用人数推移グラフ】



利用件数では城山公園テニスコートが多くなっています。一方で利用人数では野田川テニスコートは利用人数が多くなっており、テニスコートが校内に設置されていない江陽中学校がクラブ活動で利用するので件数に対して人数が多くなっていると考えられます。

【テニスコート施設利用件数比較グラフ】



【平成25年度利用者の町内外割合（テニスコート）】

町内・ 町外の別	大江山運動 公園テニスコート	城山公園 テニスコート	野田川 テニスコート
町内利用者	99.9%	95.7%	100.0%
町外利用者	0.1%	4.3%	0.0%

町内の方の利用が
ほとんどです。

■その他スポーツ施設

その他スポーツ施設は城山公園弓道場のみで、主に与謝野町弓道協会に利用いただいています。

【その他スポーツ施設利用推移表】

施設名	項目	H21	H22	H23	H24	H25
城山公園弓道場	年間利用者数（人）	2,047人	2,444人	2,594人	2,482人	2,742人

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

スポーツ施設の管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【スポーツ施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	大江山体育館	岩滝体育館 (剣道場含む)	岩滝小体育館	野田川体育館
賃金	0	1,042	0	0
光熱水費・燃料費	865	2,097	32	35
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	54	60	0	22
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	104	0	84
委託料	184	3,770	182	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	62	90	23	19
支出合計	1,165	7,163	237	160
項目	農業者健康 管理施設	大江山運動公園 グラウンド	岩滝グラウンド	野田川グラウンド
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	136	2,703	1,136	410
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	10	19	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	0	276	135	75
委託料	360	1,594	350	611
指定管理料	0	0	0	0
その他	13	0	0	0
支出合計	519	4,592	1,621	1,096
項目	算所社会体育 グラウンド	大江山運動公園 テニスコート	城山公園 テニスコート	野田川 テニスコート
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	228	120
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	123	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	242	0	502	91
委託料	0	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
支出合計	242	0	853	211

コストは大江山運動公園グラウンドに含まれています。

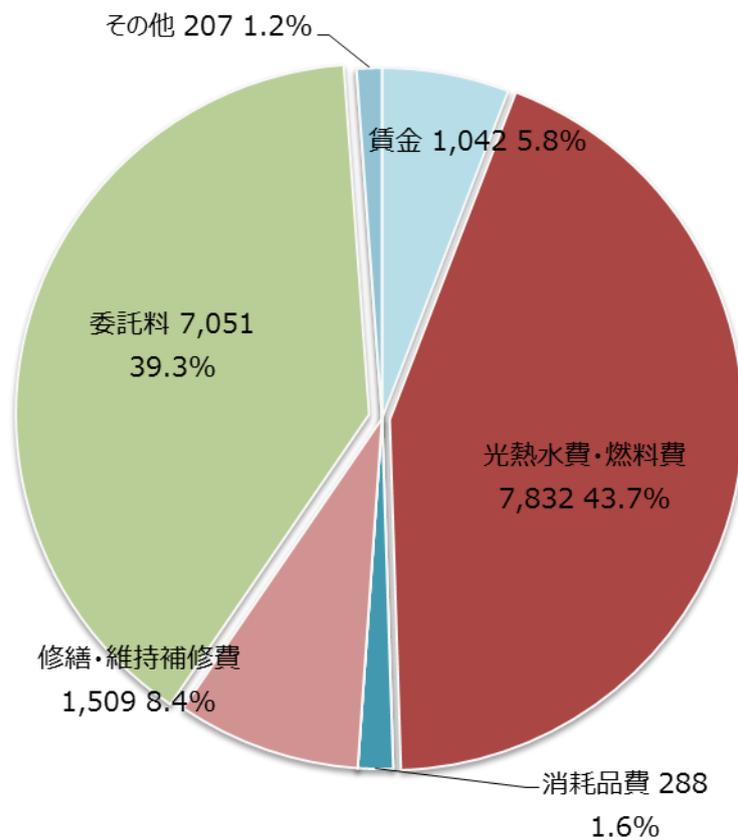
(単位：千円)

項目	城山公園弓道場	合計
賃金	0	1,042
光熱水費・燃料費	70	7,832
通信料・手数料	0	0
使用料・賃借料	0	0
消耗品費	0	288
備品購入費	0	0
賄・医薬材料費	0	0
修繕・維持補修費	0	1,509
委託料	0	7,051
指定管理料	0	0
その他	0	207
支出合計	70	17,929

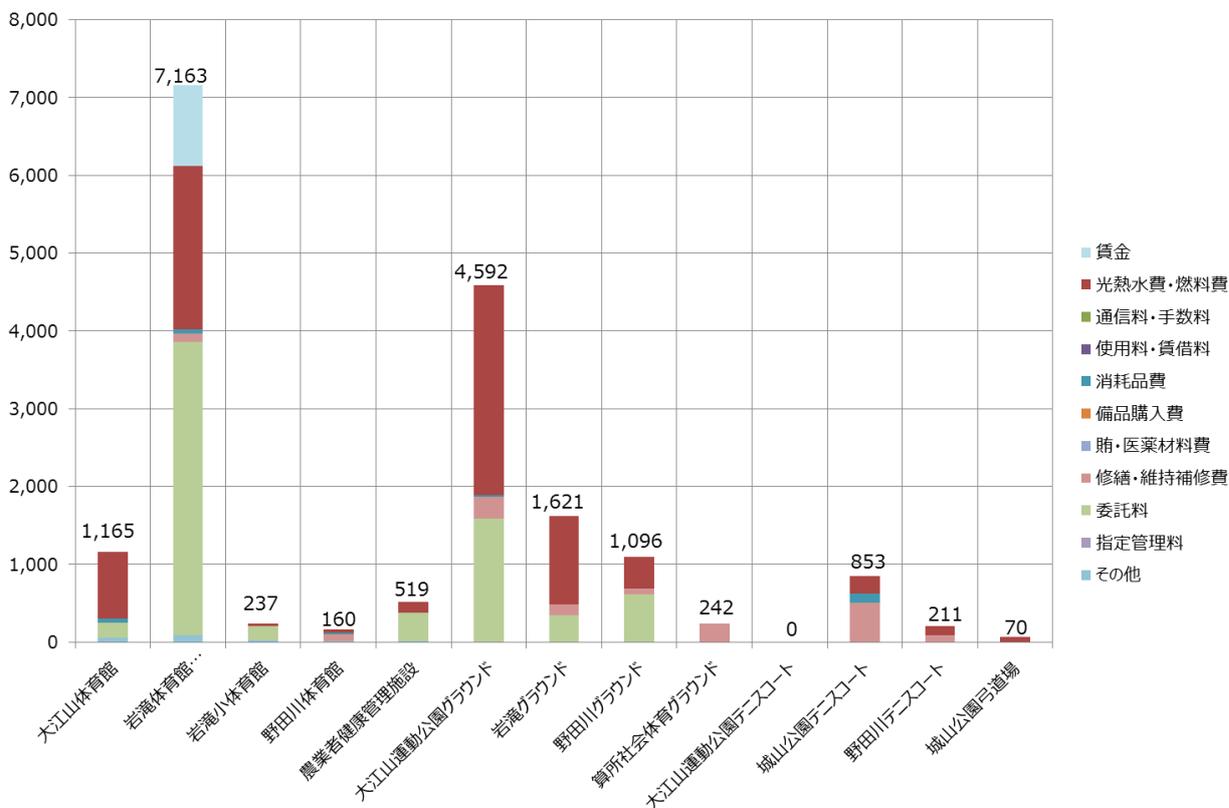
※平成25年度の実績額です。ただし大規模改修で運営期間が短かった大江山体育館は平成24年度コストです。

※野田川体育館は併設されている中央公民館にコストが含まれている場合があります。

【スポーツ施設管理・運営コスト内訳グラフ① (単位：千円)】



【スポーツ施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



スポーツ施設の管理・運営経費は年間で約 1,793 万円かかっています。その中でも多くを占めるのは光熱水費です。特にナイター設備のあるグラウンドではその割合が多くなっています。委託料も多くなっていますが、その大半は岩滝体育館の管理委託料で体育協会に委託している経費で、体育協会の事務運営費も含まれています。また、野田川体育館のコストが低くなっているのは、併設する中央公民館に包含されているためですので、体育館施設を比較するとそれほど大差がないと考えられます。

【参考：平成25年度利用料等収入】

(単位：千円)

項目	大江山体育館	岩滝体育館 (小体育館含む)	野田川体育館	農業者健康管理施設	体育館計
利用料等収入	65	673	398	94	1,230
項目	大江山グラウンド	岩滝グラウンド	野田川グラウンド	算所グラウンド	グラウンド計
利用料等収入	269	425	281	7	982
項目	大江山テニスコート	城山テニスコート	野田川テニスコート	テニスコート計	弓道場
利用料等収入	291	394	47	732	0
収入合計					2,944

【参考：スポーツ施設料金表】

各施設の利用料金は下記のとおりです。

社会体育施設利用料金表					
屋外体育施設	区分	午前	午後	夜間	設備等
		8：30～12：30	13：00～17：30	18：00～21：30	
大江山運動公園グラウンド	半面利用	800円	800円	野球 5,000円 リフトボール 2,000円	
	全面利用	1,600円	1,600円	その他 1,000円 *21時迄	
岩滝グラウンド	半面利用	800円	800円	A面：30分ごと 700円	
	全面利用	1,600円	1,600円	B面：30分ごと 300円	
野田川グラウンド	半面利用	800円	800円	30分ごと 500円	
	全面利用	1,600円	1,600円		
算所地区社会体育グラウンド	全面利用	800円	800円		
大江山運動公園テニスコート	1コート	400円	400円	1時間ごと 500円 *21時迄	
城山テニスコート	1コート	400円	400円	1時間ごと 500円	
野田川テニスコート	1コート	400円	400円	1回 800円	
岩滝ゲートボール場	1コート	200円	200円	1時間ごと 100円	
備 考 : 町外住民の使用の場合は使用料を3倍とする。 ナイター利用期間は、4月1日から11月30日までとする。					
屋内体育施設	区分	午前	午後	夜間	設備等
		8：30～12：30	13：00～17：30	18：00～22：00	
大江山運動公園体育館	半面利用	500円	500円	500円	
	全面利用	1,000円	1,000円	1,000円	
岩滝体育館	半面利用	500円	500円	500円	
	全面利用	1,000円	1,000円	1,000円	
岩滝小体育館		500円	500円	500円	
野田川体育館		600円	600円	600円	
大江山運動公園体育館柔道場		200円	200円	200円	
岩滝柔道場		300円	300円	300円	
野田川体育館柔道場		200円	200円	200円	
岩滝剣道場		300円	300円	300円	
備 考 : 町外住民の使用の場合は使用料を3倍とする。					

各施設の利用料金をご覧のとおりで、1回の利用で数万円かかる場合もある都市部の施設と比べると、かなり安くなっています（ただし都市部でも安く利用できる施設はあります。）。大学生が合宿で与謝野町の施設を利用する場合があります。

② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

☆グラウンド、テニスコートを新たに整備し直すことは想定しない。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

○体育館：建設・・・36万円/㎡（解体費含む） 解体・・・3万円/㎡

※建設コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました（スポーツ・レクリエーション系施設）。

○テニスコート：張替え・・・1万3千円/㎡

※耐用年数が明確ではありませんので時期をお示しできませんが、参考に張替えにかかるコストをお示します。

○その他：建設・・・36万円/㎡（解体費含む） 解体・・・3万円/㎡

※建設コストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました（スポーツ・レクリエーション系施設）。

これらの単価に現在の敷地面積、延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【スポーツ施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

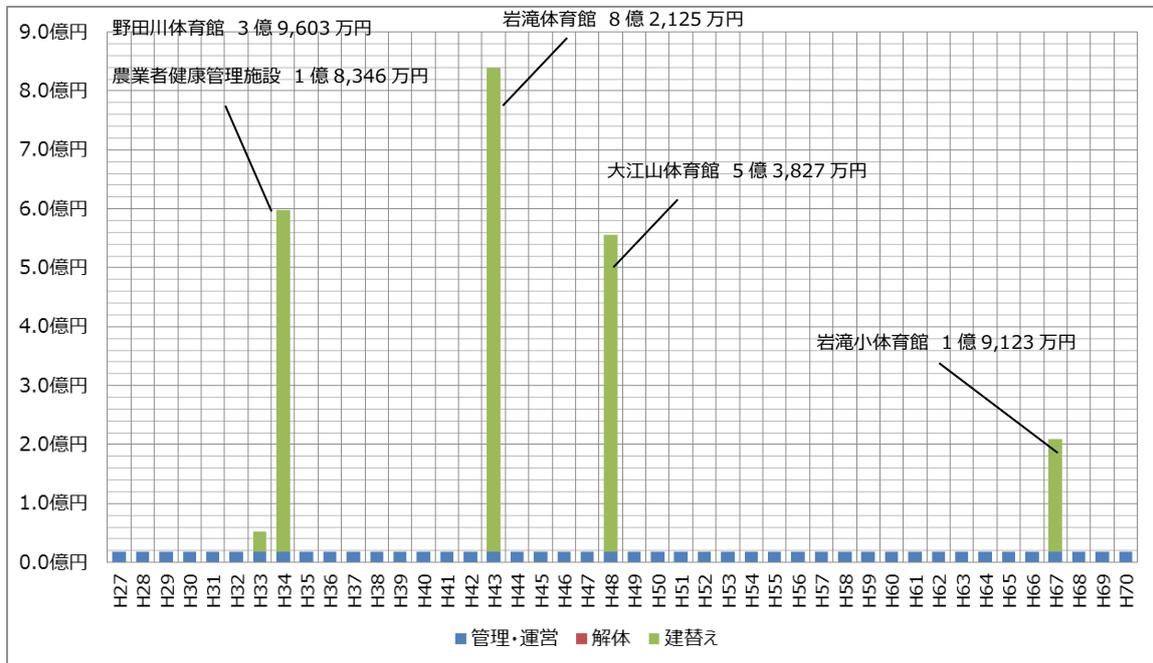
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
大江山体育館	S61	50年	191,780	H48	538,272	参考	44,856
岩滝体育館	S56	50年	247,000	H43	821,254	参考	68,438
岩滝小体育館	H17	50年	160,650	H67	191,232	参考	15,936
野田川体育館	S57	40年	131,100	H34	396,025	参考	33,002
農業者健康管理施設	S57	40年	50,524	H34	183,463	参考	15,289
大江山運動公園グラウンド	S58	-	102,400	-	-	参考	-
岩滝グラウンド	S55	-	34,354	-	-	参考	-
野田川グラウンド	S57	-	128,600	-	-	参考	-
算所社会体育グラウンド	S62	-	43,710	-	-	参考	-
大江山運動公園テニスコート	S61	-	35,000	参考	30,108	参考	-
城山公園テニスコート	S59	-	-	参考	41,600	参考	-
野田川テニスコート	S57	-	-	参考	37,570	参考	-
城山公園弓道場	S61	35年	8,000	H33	34,142	参考	2,845

合計 2,273,666 合計 180,366

テニスコート除く 2,164,388

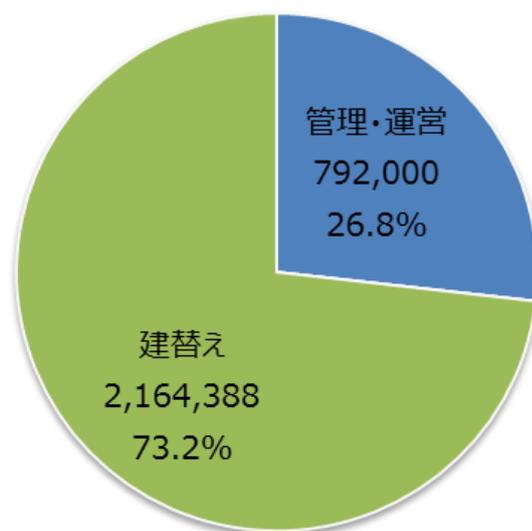
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【スポーツ施設将来コスト推移グラフ】



コスト総額約 29.5 億円（整備 21.6 億円、解体 0 億円、管理・運営 7.9 億円）

【スポーツ施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●建物状況

スポーツ施設のほとんどは昭和 50 年代から昭和 60 年代の初めに建設されたものが多く、昭和 63 年の京都国体に向けてスポーツ振興の機運の中で一斉に整備されたという印象です。したがってほとんどの施設が建設から 30 年が経過しており、実際に大江山体育館は平成 25 年度に約 1 億円をかけて大規模改修を行ったところです。体育館施設は他のグラウンドやテニスコートの屋外体育施設に比べ建設（建築）コストが高く、また耐震化という問題があります。その問題に直面しているのが岩滝体育館です。岩滝体育館は京都国体のウェイトリフティング会場として使用され、町内の 3 体育館の中でも規模が大きく、岩滝小体育館も隣接した建物です。岩滝体育館の耐震診断を行ったところ、当地方は豪雪地帯であることから、その分厳しい耐震基準に当てはめることになっており、耐震性がないという診断になっています。岩滝体育館をどう維持していくかが大きな課題と言えます。

●防災状況

大江山体育館が急傾斜地の警戒区域に指定されています。また、岩滝体育館は耐震基準を満たしていませんので、地震時の避難所に指定されていません。

●利用状況

与謝野町では体育協会傘下の各競技団体の活動が活発なので、利用はどの施設も多いです。特に岩滝地域の施設は利用が多い印象です。

●コスト状況

管理・運営コストについては他のカテゴリと比べ一施設あたりのコストはそれほど高くない状況です。その中でも岩滝体育館のコストが高い印象ですが、体育協会への管理運営委託料が 3 百万円ほどあり、体育協会の事務運営経費も含まれていることから、それを差し引けば他の体育館と同様のコストになります。

一方、今後の整備費用ですが、トータルで約 21.6 億円かかります。そのほとんどは体育館の建替え費用で、約 21.3 億円となっています。このまま全ての体育館を残していくとなると非常に大きなコストが発生することとなります。

●現状のまとめ（今後の展望も含めて）

スポーツ施設で課題となるのが今後の体育館の在り方についてです。体育館は小学校と並んで「合併により多く存在する施設」の代表例として挙げられており、与謝野町も例外ではありません。例えば与謝野町のどの体育館を廃止にするかと考えた場合、非常に難しい問題に直面します。大江山体育館は平成 25 年度に補助金を活用して大規模改修を実施したばかりです。岩滝体育館は利用も多く、規模の面でも中心となり得る体育館ですが、耐震補強工事すると大きなコストがかかると試算されています。野田川体育館は 3 体育館のなかで最も古く、併設された中央公民館の老朽化も激しいですが、利用件数は 3 体育館の中で最も多く、

併設する中央公民館の利用件数が少ないことは真逆の状況にあります。安全性に問題が生じたときに大規模改修を行うのか、建て替えるのか、解体するのかの選択が大きな課題になります。利用に関する詳細な調査（時間帯ごとの利用など）や、利用団体との協議を進めるとともに、統合で昼間の利用がなくなると予想される小学校体育館の活用など、今後のスポーツ振興を進める上では全町的な視点で検討する必要があると考えます。